



## FORUM 5

15:00～15:20

### 歯科としてN.RESCUE国際救助隊に貢献できること

岩田 幸一 歯学部・教授

#### 1. 日本大学付属高校における社会実験

2014年10月2日、佐野日本大学高等学校にて、口腔衛生と全身の健康に関する社会実験を行った。佐野日大高校においてはN. Rescue 隊のトラックは出動せず、佐野日大高校の体育館において1年生を対象に口腔衛生の重要性に関する講演を行った。本実験の目的は高校生に対して、口腔衛生の重要性を理解してもらうと同時に、災害時に本講演を聞いた学生が積極的に口腔衛生指導を行うことができるように指導することである。そこで、日本大学歯学部歯周病学講座の菅野直之准教授に対し、口腔の衛生と歯周病の関係に関する講演をお願いした。講演に際しては、本プロジェクトの重要性を説明した後に、菅野直之准教授から口腔衛生の重要性に関する講演を行った。講演は多くの口腔内写真を駆使して学生が出来るだけ理解しやすい内容とした。



当日は雨模様であったが、体育館を利用して420名の学生を対象にした

が、第1学年ということもあり、皆静かに講演に聞き入っていた。今回はいわゆる学生講義の形式であり体験学習という形式をとっていないため、どの程度理解できたかを量ることはできない。次回は実際に口腔内の衛生指導を含めた様々な体験学習を取り混ぜた実験を計画すべきであろうと考える。

#### 2. サイエンスアゴラにおける社会実験

2014年11月9日、サイエンスアゴラ2014に参加し、口腔衛生と全身の健康に関する社会

実験を行った。本実験は日本大学歯学部小児歯科学講座(白川哲夫教授)の全面的な協力を得て、実施された。本実験の目的は広く一般に人々に対して、口腔の衛生状態を維持することが全身の健康に寄与することを啓蒙し、口腔衛生の重要性の理解を促すことである。そこで、人の口腔内に存在する細菌の形態や動きを顕微鏡にて観察してもらい、口腔内に存在する細菌の実態を理解してもらう。また、口腔内の衛生指導を行うことによって口腔内から検出された細菌数が減少することを体験させた。

当日は雨上がりで、気温も低くあまり良い環境ではなかったが、2時間で数十人の来場者を迎え、実験は滞りなく終了することができた。実験場所が屋外であったことから、N. Rescue 隊のトレーラー上を実験場所に設定した。トレーラーの荷台に細菌観察用の顕微鏡、モニター、口腔内衛生状態チェック用のスペースおよび歯ブラシ指導用のスペースを設定して実験を行った。来場者はほとんどが

親子で、対象は小児の口腔内から得られた細菌とし、顕微鏡観察を行った。また、口腔衛生指導についても小児に対して行った。実際に口腔内から摂取された細菌が画面上で動き回る様子は、多くの来場者の心を捉えた。また、歯垢の染め出しによって歯に付着した歯垢の状態を直視することによって、口腔衛生の重要性をさらに深く理



解できたものと思う。このようなことから、小児に対する口腔衛生指導という点においてはまずまずの成果が得られたものと考えられる。しかし、本実験のもう一つの目的である一般の人たちに対する口腔衛生の重要性を啓蒙するという点では、どれほどの成果が得られたか不透明であり、実験方法の再検討が必要であるかもしれない。

本実験は持ち時間が2時間、また午前中ということもあり、来場者数が数十名にとどまった。より多くの参加者を動員し、本社会実験のより大きな効果を得るためには、実験に先立ってより多くの人へ本実験の意味や意義等を流布する必要があると思われる。また、実際に口腔衛生の重要性を流布するためには、小児だけでなく成人に対してもこの重要性を理解させることが必要である。